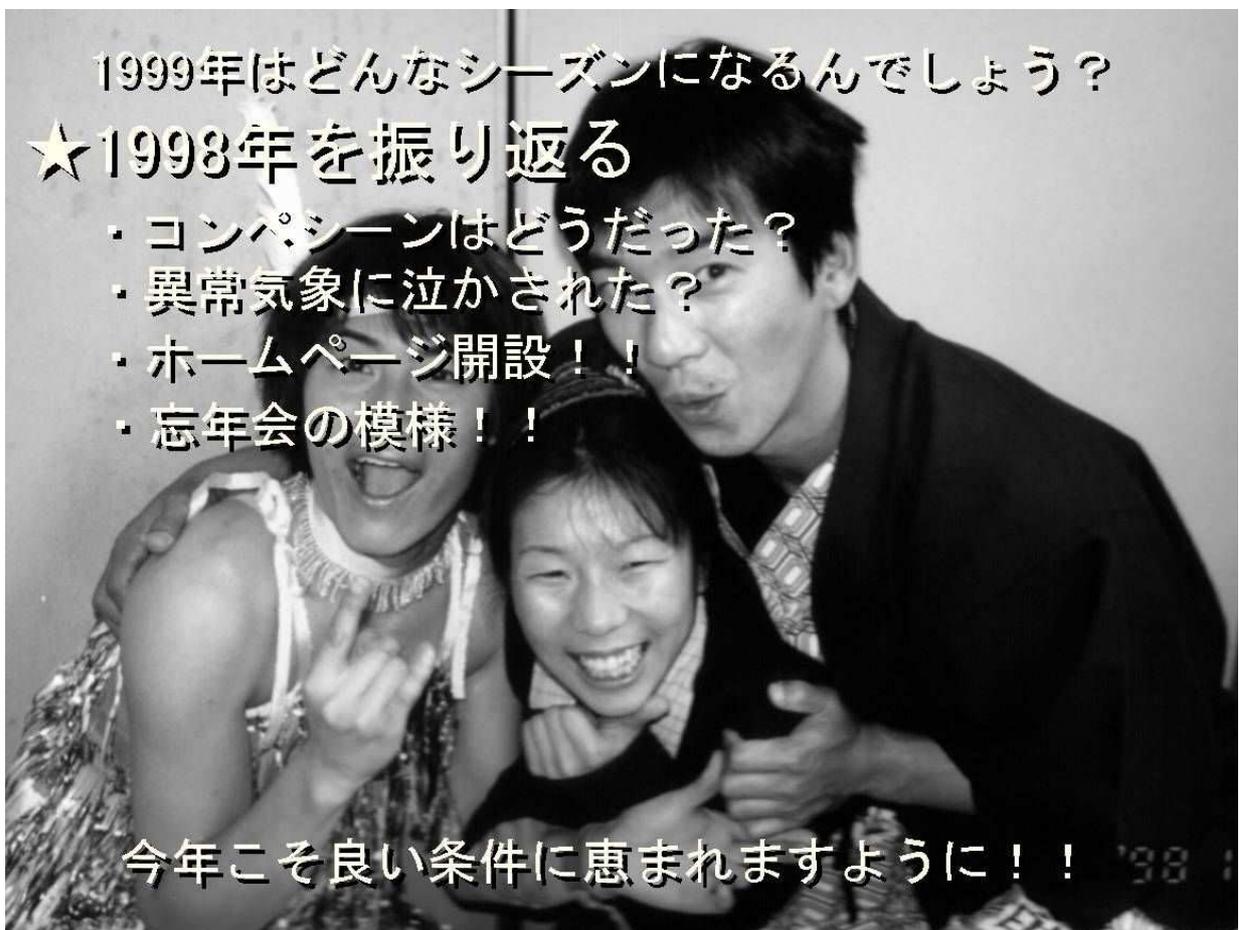


TATEYAMA

NOTAM Vol.8

Hummingbird P.G.C Communication Note.



- 内藤邦裕氏の気象講演会
- ツアーサークル“らいちょう”の伊豆フライトツアー！
- 木崎湖マヌーバ報告
- ナオくんの…ちょっとそこまで！！

今年も気象講演会が開催！！（富山県連）

Report:K.Fujino

11月28日、富山県総合体育センター会議室において気象予報士内藤邦裕氏を講師に迎え、フライヤー向けの気象講演会を行いました。

今回は、天気図、高層天気図等の知識と実際の気象条件、雲から判断できる気象状況などについて解説して頂き、30名余りの参加者は大変有意義な時間を過ごせたことでしょう。気象に関する質問や、時には内藤氏自身のフライト経験談に至るまで楽しい話



講師を務めて頂いた内藤邦裕氏

題を交えた和やかな講演会でした。

富山県連では、来年以降も引き続き開催していきたいと考えておりますので、みなさん今後もぜひ、ご参加をお願いします。

ツアーサークル“らいちょう”の 伊豆フライトツアー

Report:K.Wakabayashi

1月15日に行った伊豆フライトツアーについて報告いたします。メンバーは、ツアーサークルらいちょうのメンバーが中心の計19名。

（井上、中谷、鎌仲夫妻、押田夫妻、清水1、藤井、坂田、富田、高松、福原、津田、吉川、関沢、広瀬、高林、塩岡、若林）

1月14日（木）午後10：00に県総合体育センターに集合し、車4台に乗り込んで出発した。伊豆までの所要時間は約8時間。途中仮眠をし、朝、目的地の東伊豆三筋山エリアへ向かった。

1月15日、伊豆の天気はどんよりとした曇り空。今にも雨が降り出しそう。エリアの事務所で、ビジターフライトの手続きをし、外へ出たところでポツリ、ポツリと雨が降り出してきた。やむなくフライトはあきらめ、とりあえずエリアを見てこようと言うことになり、テイクオフへ向かう途中、雨が雪になってしまった。これでは、明日たとえ晴れたとしてもテイクオフまで車で上がれないかも・・・と、不安になりつつも下

山し、観光モードに切り替えた。この日は温泉の後、宴会し早々に床についた。

1月16日。元気なおじさまたちは朝6時から混浴の露天風呂へ出かけ、日の出と若い女体を見てきたらしい。

天気予報では、晴れるが西風がだんだん強くなるらしく、半ばあきらめモードで事務所へむかう。（三筋山エリアは西風の場合フォローになる。）事務所で聞くと、風も問題だがそれ以前にテイクオフまでやはり車で上がれないらしい。

このエリアでのフライトをあきらめ、東風で飛べる函南グライダーエリアへ向かうことにした。

函南エリアは富士山が目の前に見える絶好のロケーションのエリア。テイクオフもランディングもプレッシャーのないいい感じ。入山手続きをし、テイクオフへ移動。途中、車中からパラが2機絡みながら落ちていくのを目撃してしまった。安否を気遣いながらテイクオフに到着すると、フライト中のパラが止まってみえる。おや？っと思いつつ近づいてみるとバックしているではないか。おまけにテイクオフ前の4、5機は翼端折りをし、バックしながらトップランしているではないか。この光景を見て立山勢はフライト意欲をなくし、そうそうにエリアを後にした。

1月17日、今日こそは飛ぶぞーと意気込んで見たものの今日がツアーの最終日。朝早めに出発し、昨日の函南エリアへ向かった。テイクオフへいくと、もう既に地元の人が準備していたので立山メンバーも早々に準備した。井上さんを先頭につぎつぎテイクオフし弱いリッジとサーマルをひらってぶっ飛びに近いフライトを楽しんだ。立山勢が全員テイクオフしたところにフォローになり、よかったねーと喜んでいただけ、よくよく聞くと地元の方が優先的に立山勢を先にテイクオフさせてくれたみたい。ありがとー。と言うわけで、怪我もなく無事全員ランディングし、お昼前にはエリアを後にした。

3日間のうち飛べたのはたった一本だけだったけど、この時期一本でもフライトできてよかったー、ということにしておこう。

とても楽しかったツアーですが、一番感動したことは、らいちょうサークルの方々は、時間厳守ということと、フライトも観光も温泉もめーいっぱい楽しみ、若者ツアーでありがちな「うだうだタイム」が全くないということです。本当についていけないくらい元気でした。

皆さんも、ぜひ、らいちょうツアーに参加してみてください。きっと感動することでしょう。

もっと詳しく聞きたい方はふじまできてね。（適当に書いたので）

おしまい。

雨、雪女 恵子ちゃんでした。

こんなにあるよ！！ツアーサークル“らいちょう”の
今まで行ったフライトエリア



ツアーサークル“らいちょう”を率いる井上さん

Report:K.Fujino

先程の記事にもあったツアーサークル“らいちょう”。ハミングバードPGクラブでは知らない人はいないくらい、活発にツアーに出かけてパラグライダーをエンジョイしているクラブの“ツアー請負人”。このサークルを結成し、ツアーを企画しては面倒を見てくれるのがリーダーの井上さんだ。結成以来それこそ日本全国をまたにかけて飛び回っている素敵なおじさま（失礼）集団なのである。

今回は、そんなツアーサークル“らいちょう”の今まで行ったエリアをみなさんにご紹介しようと思う。「ここはどうで、あそこは

こーだった」なんて話を聞きたい方は井上さんやサークルメンバーにお声がけを！！

今年もいろいろな所に出かける予定とのことなので、ツアーのベテラン集団と一緒にフライトツアーに出かけてみてはいかがだろうか？きっと優しく・楽しくサポートして迎え入れてくれることだろう。



特集！！ ‘1998 年を振り返る！！

Report:K.Fujino

‘1999 年も明けて、また新しいシーズンに向かって動き出しました。みなさんはこの冬はどんな風に過ごしていますか？既にツアーに出かけたと言うニュースも聞こえていますし、ウィンタースポーツに張り切っている方もいらっしゃるでしょう？今回は、新しいシーズンを迎える前に、昨年 1998 年の出来事なんかを振り返ってみたいと思います。

●コンペションはどうだった？

コンペの世界は 1998 年も話題豊富で熱かった！なんと言っても話題をさらったのは、謎のグライダーとしてデビューしたジングライダーズのブーメランだろう。このグライダーの開発にはあの扇澤氏も参画し、氏自らがコンペで使用し大活躍したのはご存知の通り。扇澤氏は 1998 年ナショナルポイント第 1 位に輝き、今年の世界選手権の出場権を手にし、1993 年のベルビエ大会から 4 大会連続出場を果たしている。きっと、今年の世界戦でも、ブーメランで日本チームをリードする活躍を見せてくれるだろう。

クラブの中では、去年大活躍したのが高林小百合選手。春の尾神スカイグランプリではいきなりの女子優勝を果たし、これに勢い付いたか富山県選手権で 3 位、獅子孔スカイグランプリでも女子 2 位の好成績でシーズンを快走した。一方、男性陣ではコンペ界



世界のトップフライヤー田中美由喜さんと高林小百合さん（白馬乗鞍レディースカップにて）

の古株、斎藤直行選手が富山県選手権で見事優勝を果たし、初の富山県選手権者に輝いた。

今年は誰が新たな活躍を見せてくれるのか楽しみである。

クラブ員のナショナルポイント順位

1 位	扇澤 郁	富山県	306.7
92 位	藤野 光一	石川県	27.1
99 位	高林小百合	富山県	20.1
156 位	本馬 竜夫	富山県	2.3

●トミーズカップ98はどうだった？

クラブ内のコンペと言えはなんと言ってもトミーズカップでしょう。昨年は天候に恵まれず、クラス 1 はキャンセルとなってしまう選手のみなさんはさぞかし心残りであったことだろう。（私も非常に残念だった）クラス 2 の方は年々テイクオフ・ランディング技術が向上しているように見受けられ、パイロットの私達も見習わなければならないと改めて思うてしまう。この日の天候は朝から曇りがちで、高層雲が空を覆っている、いかにもソアラブルになりそうもない状況で、天気予報では午後から山沿いでは雷雨と

言うことだったので、オーガナイズは大変であった。

しかし、雨に祟られたものの大会は無事終了し、その後のバーベキューもみんなで楽しく盛り上がったことは何よりであったろう。今年こそは、クラス1を含めて良い条件で楽しめる大会になるようにしたい。

ぜひ、今年もたくさんのクラブ員の方やスクール生の方の参加をお願いしたい！！

●土壇場で決着？セルフコンペ

クラブ内コンペといえばもう一つセルフコンペがある。こちらも今年は天候に泣かされ、実施期間中の殆どで誰もタスクをコンプリート出来ない様な状況が続いていた。

なかなかタスクレポートが提出されない状況が続き、とうとうシーズン最終日の11月3日、まさに土壇場になって相次いで3名のパイロット達がタスクをコンプリート、無事セルフコンペ（ゴールドパスクラス）は成立した。今回はクラブきってのフライト時間を誇るブーメランの寺内氏が見事優勝、写真にタイムが写っていなかった高松氏が惜しくも3位転落し、着実に回った佐藤氏が2位と言う結果に終わった。

今年もセルフコンペは継続して行く予定だが、オープンクラスへの参加者が皆無に近く、コンペに興味がない人向けに“頑張った人”として表彰する制度も含めて、みなさんの意見を取り入れた形で新たなスタートを切れれば良いと思っている。

ちなみに、昨年の頑張った人は、飛べば必ず最後になるまで降りて来ないと言う、飛びに対する執念？が評価されたのか、三島氏が表彰された。



クラス2の入賞者のみなさん
左から3位大野、優勝松原、2位長谷川の各選手



セルフコンペ入賞者、左から高松氏、佐藤氏、寺内氏、写真右は頑張った人の三島氏

●異常気象に泣かされた！！

1998年は異常気象に泣かされた年だった。1月半ばの関東地方の時期外れの大雪で始まった去年は、春もいつになくパツとしないコンディションで、せっかく乗り換えたグライダーも思う存分には飛べない日々で、結構ストレスが溜まった方も多いのではないだろうか？

梅雨に入るとそれなりに雨が降り、7月上旬には九州・四国地方が相次いで梅雨明け宣言が出され、北陸地方も間もなくかと思われた矢先に、ご存知の通り前線が南下し、延々と居座り続けた挙げ句が「梅雨明け宣言見送り」発表となった。

9月にはしばらく好天が続いたものの、ゴンドラの点検期間と重なって歯がゆい思いをしたのではないだろうか？この後もガスに覆われたり前線が通過したりで「今日は最高だぜえ！！」って言いながら飛べるようなコンディションは殆どなかった。

1998年は、フライト本数もフライト時間も思うように伸ばせず、ホントに異常気象に泣かされっぱなしで終わっていった。

●ホームページ時代

1998年はクラブのホームページも開設、全国のクラブやスクールに混じって、ここ立山の情報を世界に（ちょっと大袈裟か？）発信している。このホームページには、最近クラブ・スクール生限定のメーリングリストも開設された。メーリングリストとは、メールアドレスを持った人達で構成するグループで、特定のアドレスにメールを送ると、それに登録している人全員にメールが配信される仕組みのこと。最近では会社や個人で電子メールアドレスを持つ人が増えているから、メールが使える人はぜひ加入して欲しい。将来はメールなんかで会報や情報を配信出来るようになればいいのに…。

何はともあれ、まだ見たことないって人は一度覗いて見て欲しい。

アドレスは <http://member.nifty.ne.jp/pikaichi/>

E-MAILは pikaichi.fujino@nifty.ne.jp

●忘年会も盛り上がったぜ！！

そんなこんなの1998年、締めくくり？はクラブ・スクール合同忘年会。今年もたくさんのクラブ員・スクール生のみなさんの参加があり、おおいに盛り上がった。

忘年会では恒例の、スクール生有志による出し物は、猿や怪しい女？達が歌を歌ったり踊ったりして、おじさん達（失礼！）に大人気。「こっちにも注ぎに来いま！」と、各地からご指名続出の某大学のS君。（表紙の写真参照）遠目では殆ど女、おんな、お・ん・な！！かなり近くに寄ってもそう見えるくらい似合っていたと思うのは私だけだろうか？

セルフコンペの表彰や、今年頑張った人の表彰が行われ、みなさんに暖かい拍手を受けたクラブ員もいて、「来年は俺の番だ！」って闘志を燃やした人もいた？いない？

まあ、後はビンゴやら何やらで、景品大盤振る舞いで、たくさんの人に品物が行き届いたのではないだろうか？（クジ運が悪い私は一度も当たったことがないんですが…）



出し物を披露するスクール生有志のみなさん

その後も2次会の会場では、飲めやなんやの大騒ぎ？が夜遅くまで続いたようで、日頃見られないあの人の意外な一面を見たと言う方や、「あの人らしい」と改めて思った方もいたことだろう…。

●今年は何…？

少々駆け足で1998年を振り返ってみた。まだまだ書ききれない事もたくさんあるのだが、今年1999年はどうなるのか？

今年はある有名な「ノストラダムスの大予言」の年でもあり、何が起こるか分からないのであるが、私達の願いは何と言っても「良い条件に恵まれ、楽しいフライトがたくさん出来て、事故や怪我もなく安全なシーズンであって欲しい」と言うことに尽きるのではないだろうか？そこで、今シーズンを楽しく飛ぶためには

1. シーズン前の装備品のチェックはしっかり行おう
2. レスキューのリパックも忘れずに！！（スクールにお願いしようね）
3. 飛ぶ前には、山野で立ち上げ練習
4. テーマを持ったフライト
5. ツアーなどの楽しい企画への参加
6. 競技やセルフコンペなんかに挑戦

などなどたくさんあるけど、自分のやりたいことを明確にしておけば、どうすればいいかが見えてくるし、それが楽しみにもなってくるので今の内から準備して、イメージトレーニングなんかに励んでみてはいかがだろうか？そうそう、昨年からはまったマヌーバトレーニングに参加するのもいいと思うよ。とっても為になること請け合い。

とにかく、この冬が終わればシーズンが始まるのだから、首を長くして待ちながらも準備だけは怠らないようにしたいものだ。いいシーズンが訪れますように！！

セーフティセミナー木崎湖参加報告！！

Report:K.Fujino

1998年11月7日～11月8日の2日間に渡り、長野県の木崎湖にて行われたアエロタクト主催の「セーフティセミナー木崎湖」に参加してきました。一般のパイロットを対象にしたこのセミナーは今回で3回目であり、我がハミングバードからも8名のパイロットが参加しました。今回参加したのは、私（藤野）、恵子ちゃん、本馬君、高井さん、高林さん、松井君、塚本君、横江君の面々。それに、オフィシャル側のビデオ係として斉藤君の9名で木崎湖に向かったのです。

今回は、私のマヌーバレポートを中心に、私の視点で感じたことや感想を交えながらレポートしたいと思います。

豪華講師陣！！

今回のセミナーの講師は半谷氏を筆頭に、日本一理論派のフライヤーで知られる小野寺久憲氏、我がハミングバードクラブ員でもあり、元JMB立山PGスクール校長、現在は日本初のテストパイロットであり、コンペティターでもある扇澤郁氏、スペシャルゲストとしてFREEXのオーナー、クリストフ・キルツシュ氏と言う豪華な講師陣に迎えられ、「今回の参加者はラッキー！！」であった。

（キルツシュ氏の来日については、公表されていなかったので参加者は現地で大喜び！！



写真中央がキルツシュ氏

初日は集合場所の駐車場からバスやバンでランディングに移動、諸注意を受けた後で扇澤氏のマヌーバのデモンストレーションを見学。その後、テイクオフに移動し、再度注意や理論等のブリーフィングを受け、ようやくマヌーバトレーニングのスタートとなる。私は今回、風邪気味で、しかもテイクオフまでのバスに酔ってしまい、体調は最悪だった。ライフ

ジャケットを付け、無線機を防水カバーにしまって準備を済ませる。今回は何がなんでもトップで出てやると言うのが最初の目標。（早くやったほうが気分も楽になるってもんだ）そう思っていると、ハミングバードからのスタートで、トップは松井君。しかし、まだ準備中なので、スタンバイOKの私からスタートとなった。

いよいよマヌーバ開始

最初のメニューは

1. サイドコラップス（50%程度）
2. そのまま旋回に入るまでコラップスをホールド（1回転くらい）
3. 旋回を制御（急激な旋回に移行しないように外翼のブレークをコントロール）
4. コラップスから通常滑空に移行（潰れが直らない場合はシェイクする）
5. 今度は大きくサイドコラップス（70%くらい）
6. すぐに潰した側のAライザーを放す
7. 旋回に入らないようにコントロール
8. 通常滑空に戻す

と言うもの。コラップスについては日頃からトレーニングしているので、大した緊張感もなく湖面に出て無線の指示を待つ。「じゃあ、その辺からやってみよう！！」と言う声で左側のAライザーをカー杯引く。一気に70%以上潰れ、右翼が勢い良く前方にシェーディングして旋回が始まる。「潰れが大きすぎる！」と注意を受ける。「グライダーのリーディングエッジが目線より下に行かない様にコントロールして！」と言われ、右のブレークコードで旋回をコントロールし、ホールドしてたAライザーを解放、通常滑空に戻す。次はコラップスさせてすぐ放すメニュー。これも難なく終了。「ピッチングをやってみて！」と言う指示に従いピッチングを行うが「タイミングが悪いよ」と指摘された。しかし、無事に1本目が終了。

後から続々とハミングバードの面々がマヌーバをこなす。「潰せるかどうか心配だ」と言っていた高林さんも大胆に潰していた。

2本目。1本目と同じメニュー。今度は潰し過ぎないように注意し、50%程度潰してホールド、2回転させてから回復させる。次は70%潰して旋回に入らない様にコントロールし、すぐに回復させる。これは、テイクオフ直後などで旋回に入るとマズイ場合に真っ直ぐグライダーを飛ばすことを想定したトレーニングである。2本目も無事終了！！



写真中央のTOPがテイクオフ

3本目のメニューについて説明される。今度は私が今回目的としたメニューで

1. ミニマムスピードからのフルストール
2. グライダーを頭上に安定させる

3. グライダーが頭上～前方にあるタイミングでブレークコードをリリース
4. フルストールから回復
5. 通常滑空に移行
6. トリムスピードから急旋回
7. スピンに入る手前でブレークコードをリリース
8. 180度急旋回を終了したところでピッチングを止め、通常滑空に移す

と言うもの。フルストールは、今後行う予定のスピンからの回復操作において、重要なトレーニングである。また、急旋回は、通常飛行中に障害物回避や衝突回避時に役立つ技術で、スピンに入る挙動も体感出来る。これらは、通常エリアで飛行していてもトレーニング出来るものではないため、今回私が最も重点を置いてトレーニングしたかった項目の一つだ。フルストールと急旋回＝スピンのエントリーポイントが確認・体験できただけでも参加した価値があった。

反省会は真剣そのもの！

初日は3本トレーニングすることが出来た。この後、小谷パラグライダースクールのクラブハウスへ移動して、今日撮ったビデオを見ながらレクチャー&反省会が行われた。

初日に着水したパイロットは4名（くらいだったかな？）。その中に、我がハミングバードのメンバーが含まれていた。彼のビデオが教材にされ、講師陣の集中砲火が浴びせられた。（彼にとっては辛い時間が続いたことだろう）彼が着水したのは、サイドコラップスホールドから旋回に移行させるメニュー。外側のブレークはビデオを見る限りではノーコントロールで、スパイラルはどんどん急激になり、更に悪いことに潰れた翼を回復させようとシェイクする動作が旋回を更に加速させてしまう悪循環に陥っていた。本人曰く、「外側はあてていたが重くて引ききれなかった」と言っている。着水間際でシェイクを止めたためか、旋回が少し緩んで湖面に着水。

このビデオで最も重要な問題点は「レスキューを投げなかった」事である。今回はトレーニングと言うことで下は水である。しかし、通常は水ではなく、地面だったり山肌だったりする訳だ。そこへ旋回したまま激突すれば、結果は火を見るより明らか。彼は死んでいたのである。（または、かなりの重傷を覚悟せねばなるまい）本当ならば、グライダーが制御出来ないと自分で判断したら、いつまでも潰れを回復させる操作よりも、レスキューを投げる判断を下すべきなのだ。また、そのように判断するチャンス、レスキューを投げるチャンスがあったにも関わらずそれをしなかったのは、このトレーニングに参加した意味が半減してしまうのではないか？この事は、半谷氏をはじめ、キルツシュ氏も厳しく指摘していた。更に、ブレークコードが重いことによって引けない場合の対処法について質問が飛んだ。かって一世を風靡した「バーティカルスピン」と言う現象があった。これも、ライザーが体の前方に移動するため、ブレークが重くて引きき

れないと言ったことが起こるらしい。その場合、「Dライザーなどのリアライザーを引いて旋回バランスを崩し、グライダーを頭上に持ってくる」と言う話があったが、キルッシュ氏は「我々がコントロールするものはブレイクコードであり、またブレイクコードもコントロールするために作られている。そのコードを操作しないで別のものを操作するのは間違っている。我々はブレイクコードを操作することに集中すべきだ」と言う回答があった。もっともな話だ。引けない状態であっても、コントロールが効くまで手に巻くとか、いろいろ努力しなければならない。それでもだめで、自分はコントロール出来ないと判断したらレスキューなのだ。

ハミングバードのメンバーがやり玉に上がった訳だが、論議としては参加者にとってありがたい教材を提供した訳で、本人には申し訳ないが取り上げることにした。

この後、宿に帰ってしばしの宴会モード。着水した彼はかなりショックを受けていたが、みんなで慰め（と言うか、前向きな意見を言って納得させ）て、夜遅くまで盛り上がった。私は風邪気味だったので、早めに就寝させて頂いた。

マヌーバ2日目

2日目。風が悪いのでミーティングと言う決断があったが、その後風もかわった為、無事トレーニングに入ることが出来た。

4本目のメニューは

1. トリムスピードからスピンへ移行
2. フルストールに入れスピンを止める
3. グライダーが頭上～前方にある状態でブレイクコードをリリース
4. 通常滑空に移行
5. 1回転でスパイラルへ移行
6. Gを感じながら旋回をコントロール
7. ゆっくり旋回をコントロールし、最後は”おつり”が来ない様に、また、ランディングを向いた状態で通常滑空に移行

と言うものだ。（スピンからストールは3本目にやってたかもしれない・・・。記憶が曖昧ですみません）

テイクオフでは小野寺氏が「イメージは出来てますか？回復しなかった時も次にどうするかをイメージしておいて下さい」とアドバイス。扇澤氏も「今回は危なくない場合は指示しませんから、みなさんでコントロールするトレーニングをして下さい」ときっぱり。でも、その方がイメージを現実のものにするのに一番いい。実践が何より大切なのだ。私は2番目にテイクオフ。途中は結構いい条件でサーマルに入った時は高度を稼ぎながら湖上へ向かう。

トレーニングポイントに着くと、扇澤氏の指示で両方のブレイクコードを腰辺りまで

引き、ミニマムスピードまで耐える。その後左を素早くリリースし、右は更に引き込みスピンに入った。頭上でグライダーが回転したことを確認し、すぐに両方のブレークコードを腰まで引いてフルストールに入れる。旋回が止まり、グライダーが頭上でなお且つ頭上より前方に行こうとする瞬間をとらえて両方のブレークコードをリリースする。すると、イメージ通りにグライダーが前方にシューティングし、軽い揺り返しの後通常滑空に戻った。次はスパイラルである。左旋回でエントリー。ブレークコードを腰まで引き、スピンに入るか入らないかのギリギリの所で、更に体重移動を使ってスパイラルに移行させる。目標通り1回転でGを伴う急激な旋回に入った。ノーズが下に行きすぎないように外翼を当てながら調整し、徐々にブレークコードを戻し、外翼は更に引き込む。そうしながら旋回スピードをコントロールし、途中でバンクが急激に戻されそうになるので再度旋回側のブレークコードを引き込み調整、お釣のないスムーズな通常滑空への移行に成功した。が、ランディングへ向けて終了することは出来なかった。（これはタイミングなんかもあって、かなり難易度が高いぞ！！）無事ランディング。

2日目の2本目も同様に個人申告。私は、スピンからのリカバリーを申告し、無事終わることが出来た。

参加して損はない！

今回、このような機会を得て、実際にマヌーバと言うものを体験し、自分のグライダーの挙動や性格、操作範囲などを体験したことで、今後のフライトにおいての重要なことが再確認できた。

とにかく、危険な操作に陥らないように、日頃からグライダーを操作できる様に慣熟することが必要である。また、万一の場合でも、チャンス（高度など）があれば、グライダーを回復させることが可能であると言う事実を知り得たのも大きな収穫である。何よりも、命あつての遊びなのだから、最終的な判断は自分自身で行い、自分がだめならためらわずにレスキューである！！と言うことを再確認した。これらは、簡単にエリアで練習出来る内容のものではないので、今後は忘れない様にイメージを持ち続け、次回



お揃いのスーツで決める本馬・塚本・高井

の機会があれば、またその時に確認できるようにしたい。

ハミングバードから参加したクラブ員のみなさん、大変お疲れ様でした。次回もぜひ、自分のために参加しましょう！！

ナオくんの…ちょっとそこまで！！

Report:N.Saitoh



今回より不定期にて、斎藤直行氏が立山エリアのポテンシャルを探るべく、あちこち飛んでは状況をお知らせする企画として“ナオくんの…ちょっとそこまで！！”がスタート！

斎藤氏は、立山の若手 **TOP** コンペティターとして活躍し、また、立山エリアにおいては、その可能性を探るべく、条件が良ければどこかへ飛

んで行ってはX Cまがい？の事をする貴重な存在でもある。(勿論許可済)

かつて、初めて大辻を越えて箕輪に到達したのも彼だったし、室堂まで飛んで行って「らいちょうがビビるから二度と飛んでこないでくれ！！」と叱られたのも彼だった。

さて、今回は何処へ行ったのやら…。

西側開拓！！

すこし前のことになりますが、10月24日その日は少し遅く家を出発し10時半頃(だったと思う)に岩嶽寺を通過した。そのころの平野は青空で山沿いの上に雲が有り、岩嶽寺付近では積雲が列を成していた。“ふじ”についたころには、大辻のトップも出ていた。その時点では美女平から大辻を経て早月方面へ「行けたらなー」とゆう感じだったので関沢さんには「どっか旅立つちゃ！」と言ってToへと向かった。

しかしうだうだしている間に立山方向から、悪魔のような黒いくもが出てきていても美女方向には行くような気配では無くなってしまいToから50mほどで雲低、それもサーマルと言うよりは吸い上げ(一緒と言ったらおしまい)と言った感じだった。

とりあえずToして金山までまっすぐ何もせずに行き(と言っても上がりっぱなしで雲低をフライト)金山の北側で雲の向こう側(雲の中ではない)でまわして本宮の上を通過して対岸へと向かう。わたる途中や対岸には雲が多いもののプラスになるほどのリフトはなく、いつものへろへろ飛びで進む。千垣トンネルの上の方でリフトに当たりあげながら尖山の方へとリフトのコアを探して行きその付近で関沢さんと無線を交わし高度1000mぐらいまで上げるが雲低まで上げれず(やっぱ下手やね)写真を撮る。

斎藤氏のフライトコース



それで次の雲へと行きたいところだがそれから先に雲はなくどうしようと言ったところだった。とりあえず平地の煙は北東の風を示していたので常願寺川の左岸へと流しリッジサーマルを当てにするが当たらずに大川寺と雄山神社の間の河原にランディングしてしまった。

(斎藤氏のレポートはここまでだ。今シーズンは果たして何処へ行くのか？ねえ。ナオくん…?)

立山ライブカメラ設置計画にご協力をお願いします

現在、立山山麓フライトエリアの状況をリアルタイム（と言っても2時間おきくらい）にホームページで確認出来るようにライブカメラの設置を検討・計画中です。このライブカメラが設置になると、一定間隔毎にエリアの画像（写真）をホームページ上に公開し、今の状態が見られるようになります。特に有効な使い方としては、梅雨～夏にかけての雲低が低い場合に、実際の画像を見て確認出来る事が上げられます。

この計画は、スクール、クラブ、安全管理委員会等に持ちかけて実現すべく交渉中ですが、多少の機材・資金が必要になっています。（PC機材、ソフト、他）特にPCに至っては新規で購入する程のスペックは必要ないため、クラブ員の方で使わなくなったPCがありましたらご提供頂けないか？と思っております。PCのスペックは

DOS/V機であること、CPUはi486DX2以上、メモリ16MBあればよし
ハードディスクは500MB程度あれば十分

です。Windows98が動かないPC（辛うじてWin95が動く）でも利用出来ますので、「持ってる！」って方は編集部までご一報下さい。

1999年になってしまいました。20世紀もあと2年ですね。

さて、久々の会報発行です。今年は不定期発行となり、みなさんには申し訳なく思っていますが、いかんせん記事や編集の手間を考えるとこうならざるを得ないのが現状です。ご理解を…。今後は、会報もそうですが、ホームページへ力を入れて行くつもりです。会報はホームページの記事を上手く利用して編集して、「ホームページは見られない」と言う人に配慮したいと思います。

今回の記事はいかがでしたでしょうか？1998年を振り返って、今年はもっともっと良い年になればいいと思っています。また、ツアーサークル“らいちょう”の伊豆フライトツアーは、タイムリーな記事になってホっとしています。他にも、マヌーバレポートやクロカンレポートなど、比較的立山の話に絞ったつもりです。

みなさんの中でも、楽しい話題があればお寄せ下さい。（記事には結構困ってます）

それから、メールアドレスをお持ちの方はぜひ、メーリングリストに入って下さいね。詳しくはHPを見るか、私までメールで質問をどうぞ！！
(P i k a i c h i)

●話題の提供・ご意見・原稿の投稿は…

FAX (076)240-6692 藤野 光一宛
(0764)81-1551 JMB立山パラグライダースクール内
ハミングバードPGC事務局広報宛

ファイルで投稿希望の方は…

3.5インチFD1.2MBまたは1.44MBフォーマット)にTXT形式で保存されたファイルを事務局へお持ち下さい！！

電子メールで投稿希望の方は…(インターネット、BBS経由)

以下のアドレスへメールして下さい。

pikaichi.fujino@nifty.ne.jp 藤野 光一宛

HomePageは

<http://member.nifty.ne.jp/pikaichi/index.html>

TATEYAMA NOTAM

タテヤマノータム：第8号 1999年2月8日発行

- 編集発行人 藤野 光一
- 発行所 ハミングバードPGC 広報委員会会報編集部
- 事務局 〒930-1452
上新川郡大山町本宮らいちょうバレースキー場 レストランふじ内
JMB立山パラグライダースクール ハミングバードPGC事務局